



詩



著作権の関係で、本書に掲載可能な作品について、収録しています。

おれはかまも

かまものひめ

おつ なひだせ
おれは げんきだせ
あまり ちかよるな
おれの こころも かまも
じまはかまものひめ
ひかこいませ

おつ あひだせ
おれは がんばりだせ
ちえる ひをあげて
かまを ふりかざす すがた
わいわいあはれ
かまこいませ

工藤直子『のはらった』I (童話屋より)

ちよちよ

ちよちよ

ちよちよ ちよちよ
ちよちよ 「ちよちよ」
ちよちよ
わたしは「ちよちよ」かわりに
かくれてしまふ

そのよる ちよちよのなかで
へんじの れんしゅうをしました
「ちよちよちよちよちよ
ちよちよちよちよちよ
ちよちよちよちよちよ」

あしたは
あしたは へんじのちよちよちよちよ
あしたも
だれかが あつてちよちよちよちよ

工藤直子『のはらった』II (童話屋より)



星のおしごと

新川 和江

子供がみんな
ねむってしまおうと
こんどは 空で
星たちが目をさまします

月のおかあさんが
ひとりひとり 名をよみあげて
こんやの星のおしごとを
きめてゆきます

—— 一ばん星ちゃん
あなたは こんやは
ケニアのナンジャモンジャくん
—— 二ばん星ちゃん
あなたは ゆうべにひきつづき
ニッポンのサチコさん

こうして星は
朝まで ねむらず
世界じゅうの子供たちの
ゆめのばんを するのです

『星のおしごと』大日本図書より

ふしぎな ポケット

まじ・みちお

ポケットの なかには
ビスケットが ひとつ
ポケットを たたくと
ビスケットは ふたつ

もひとつ たたくと
ビスケットは みつつ
たたいて みるたび
ビスケットは ふえる

そんな ふしぎな
ポケットが ほしい
そんな ふしぎな
ポケットが ほしい

『くまさん』(童話屋)より

うみと わたし

岸田 衿子

うみが りようてを ひろげて
はしってきたから
わたしも りようてを ひろげて
はしっていったの

うみが しやらしやら
なみでくすぐったから
わたしも しやらしやら
くすぐってあげた

うみが さよなら さよなら
てをふったから
わたしも さよなら さよなら
てをふってあげた

幼い子の詩集『パタポン』(童話屋)より

きりなした

谷川 俊太郎

しゅくだいはやくやりなさい
おなかがすいてできないよ
ほっとけーきをやけばいい
こながないからやけません
こなはこなやでうってます
こなやはへうへうひるねだよ
みずぶっかけておこしたら
はけつにあながあいてる
ふうせんがむでぶさぐさのよ
むしばがあるからかめません
はやくはじしゃいきなさい
はいしゃははいはいうってます
でんぱううってよびもむせ
おかねがないからうてないよ
ぎんこうへいってかりいで
はんこがないからかりられぬ
じぶんではってつくったら
まだしゅくだいがすんでない

声で読む日本の詩歌166『おーい、ぼほんた』
(福音館書店)より

星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
昼のお星はめにみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

ちつてすがれたたんぽぽの、
かわらのすきに、だままって、
春のくるまでかくれてる
つよいその根はめにみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

金子みすゞ『童謡集』わたしと小鳥とすずと
(JULA出版局)より

わたしと小鳥とすずと

金子みすゞ

わたしが両手をひろげても、
お空はちつともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように、
たくさんなうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがつて、みんないい。

金子みすゞ『童謡集』わたしと小鳥とすずと
(JULA出版局)より

はなしようぶ

星野 富弘

黒い土に根を張り
どぶ水を吸って
なぜきれいに咲けるのだろう
私は
大ぜいの人の 愛の中において
なぜみにくいことばかり
考えるのだろう

四季抄「風の旅」
(学研パブリッシング)より

鏡に映る顔

星野 富弘

鏡に映る
顔を見ながらおもった
もっ
悪口をいうのは
やめよう
私の口から出た
ことばを
一番近くで
聞くのは
私の耳なのだから

『星野富弘全詩集①』(学研)より



タンポポ魂

坂村 真民

踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かつて咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

詩集

『念ずれば花ひらく』
(サンマーク出版)より

二度とない人生だから

坂村 真民

二度とない人生だから
一輪の花にも
無限の愛を
そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも
無心の耳を
かたむけてゆこう
二度とない人生だから
一匹のおろぎでも
ふみころさないように
こころしてゆこう
どんなにか
よろこぶことだろう
二度とない人生だから
一ぺんでも多く
便りをしよう
返事は必ず
書くことにしよう



二度とない人生だから
まず一番身近な者たちに
できるだけのことをしよう
貧しいけれど
こころ豊かに接してゆこう
二度とない人生だから
つゆくさのつゆにも
めぐりあいのふしぎを思い
足をとどめてみつめてみよう

二度とない人生だから
のぼる日しずむ日
まるい月かけてゆく月
四季それぞれの
星々の光にふれて
わがこころを
あらいきよめてゆこう

二度とない人生だから
戦争のない世の
実現に努力し
そういう詩を
一篇でも多く
作ってゆこう
わたしが死んだら
あとをついでくれる
若い人たちのために
この大願を
書きつづけてゆこう

詩集『念ずれば花ひらく』(サンマーク出版)より

あいたくて

工藤直子

だれかに あいたくて
なにかに あいたくて
生まれてきた——
そんな気がするのだけれど

それが だれなのか なになのか
あえるのは いつなのか——

おつかいの とちゅうで
迷ってしまった子どもみたい
とほうにくれている

それでも 手のなかに
みえないことづけを
にぎりしめているような気がするから
それを手わたさなくちゃ
だから

あいたくて

『あ・い・た・く・て』(大日本図書より)

母親というものは

葉 祥明

母親というものは無欲なものです
我が子がどんなに偉くなるよりも
どんなにお金持ちになるよりも
毎日元気でいてくれることを
心の底から願います

どんな高価な贈り物よりも
我が子の優しいひと言で
充分すぎる程幸せになる
母親というものは
実に本当に無欲なものです

だから
母親を泣かすのは
この世で一番いけないことなのです

『母親というものは』(学研)より

『雨にも負けず』『宮澤賢治詩集』(新潮文庫)より

雨にも負けず
風邪にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
欲はなく 決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな茅葺きの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行つて看病してやり
西に疲れた母あれば
行つてその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行つて怖がらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめろといい
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにデクノボーと呼ばれ
褒められもせず 苦にもされず
そういうものに
わたしは なりたい



おすすめしたい詩集



金子 みずぶ

- ◇わたしと小鳥とすずと
- ◇明るいほうへ
(JULA 出版局)
- ◇金子みずぶ名詩集
(彩図社)

まど みちお

- ◇まどみちお全詩集
- ◇空気 (理諭社)
- ◇ぼくがここに
- ◇くまさん (童話屋)

原田 大助

- ◇さびしいときは
心のかぜです
(樹心社)

岸田 衿子

- ◇いそがなくても
いいんだよ
(童話屋)

伊藤 英高

- ◇きらわれからす
(大日本図書)

- ◇幼い子の詩集 パタポン
田中 和雄 編
(童話屋)

- ◇名詩の絵本
川口 晴美 編
(ナツメ社)

- ◇新・詩のランドセル
1~6年
江口 季好 他3名 編著
(らくだ出版)

工藤 直子



- ◇のはらうた I~V
- ◇子どもがつくるのはらうた
- ◇わっしょいのはらむら (童話屋)

- ◇あ・い・た・く・て (大日本図書)
- ◇工藤直子詩集 (ハルキ文庫)
- ◇てつがくのライオン (理諭社)



谷川 俊太郎

- ◇あさ／朝
(アリス館)
- ◇ことばあそびうた
(福音館書店)
- ◇すこやかに
おだやかに
しなやかに
(佼成出版社)

相田 みつを

- ◇にんげんだもの
- ◇しあわせはいつも
- ◇一生感動一生青春
(文化出版局)

星野 富弘

- ◇風の旅 (立風書房)
- ◇あなたの手のひら
(偕成社)
- ◇星野富弘全詩集
(学習研究社)

宮沢 賢治

- ◇宮沢賢治詩集
(新潮文庫)

葉 祥明

- ◇母親というものは
(学研)

坂村 真民

- ◇念ずれば花ひらく
- ◇二度とない人生だから
(サンマーク出版)

石垣 りん

- ◇空をかついで
(童話屋)

東 君平

- ◇心のボタン
- ◇紅茶の時間
(サンリオ)